

～ツツクモノ◆カワル  
コト～

仏のマスター

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

少女は見た。目の前に立つ蒼き輝きを放つ何かを……

少年は翔る。自身に課せられた使命を全うする為……

少女は瞳を輝かせ彼を見つめ、少年は汗を滲ませ彼女を見る。

そんな二人の出会いがこの物語の始まり。

タグは随時追加予定！

現状、次作の先行投稿で、作品紹介のみになります。

2019/7/7 仏のイチャエロ作品集に裏話更新してます。

他作品投稿により一時更新停止中 ( ) m

# 目次

第00話	作品紹介	1
第00話	作品紹介2	6

## 第00話 作品紹介

少女は見た。目の前に立つ蒼き輝きを放つ何かを……

少年は翔る。自身に課せられた使命を全うする為……

少女は瞳を輝かせ彼を見つめ、少年は汗を滲ませ彼女を見る。

そんな二人の出会いがこの物語の始まり。

「とー！　　いうわけで、始まりました〜司会進行は天才東さんこと、私篠ノ之束と〜世界最強にして【私の嫁】こと——『誰がお前の嫁だ？』——フギャツ！　　イタイよ〜ちーちやん!!」

千冬のアイアンクローが決まり、痛みに顔をゆがめる束。

「ふん……織斑千冬だ。さっさと続けろ」

「アイタタタ……ちーちゃんは容赦ないな〜さてさて、更にもう一人！　　今作の主人公にして、わ……【私の（未来の）旦那様】……キヤツ☆——『おい。誰が旦那様だ？

馬鹿兎』——ギャン!?　　今度は後ろから!」

主人公のアイアンクローも決まり、再び痛みに顔をゆがめる束。

「はあく〜一応主人公らしい山田翔だ。馬鹿兔の世迷い言は無視してくれて構わない」

「アイタタタ……しよ〜くんの愛は痛いなあ——『フン!』——ガフツ!」

「さて、うるさいのが黙ったところで作品紹介に移るぞ千冬」

翔の放った掌打が束の鳩尾に決まり、束ダウン!

「そうだな。(まあ、いつも通りその内に起きてくるだろう) しかし、相変わらず束には容赦ないな」

「こいつに手加減無用なのは千冬も分かってるだろう?」

「まあな」

軽く説明すると三人は中学からの同級生で友人。翔は束程では無いがそこその頭脳、千冬程では無いがそこその戦闘力を持った普通の人です。

「私からすれば十分、翔も人外枠なんだが……」

「いや、俺はまだ普通の人間枠のつもりだ」

「——つまり私たちは人外枠だと認めるのだな?」

覇気を強め指を鳴らしながら、翔へと近づくと千冬。しかし、翔は動じない。

「えっ!? まさか認めてなかったのか!」

「……………まあいい。というか本来の目的である作品紹介を全くしてないような気がするのだから?」

三人の関係性を記す意味では十分紹介になっていきますので問題ありません。

「ん？ 何か聞こえた様な気がしたが、気のせいか」

「そういう事にしておけ」

「……取りあえずは冒頭の文についてだな。これは【白騎士事件】における一幕だ。先に言っておくが、この少女はそこに転がっている馬鹿兎ではない。前作の宣言通りの彼女が今作のメインヒロインだ」

「まさか翔が年下好みだったとはな……ククク。てつきりなんだかんだ束とくつつくものとはかり思っていたのだが……I Sもアレだし」

ニヤニヤと笑いながら翔の方を見る千冬であったが、翔は相変わらず動じない。

「それはないだろう。むしろいつかまた葉盛って、既成事実だのされないか恐れているくらいだ……あと、同じ千冬には言われたくない」

「な、なんの事だ!? ん?……今『また』と言ったか?」

「……未遂だ。深くは聞くな」

「……お前も苦労しているんだな」

お互い思うところがあるのかそれ以上はツツコまなかつた二人。この辺は話が進むにつれて分かってくると思います。

ここで更に補足させて頂くと、今作は前作のパラレルワールドでもありません。(読まれる上で前作知識は別に必要無いです) 要は千冬の想い人は前作主人公になります。中には名前くらいしか出す予定はありませんしISは操縦出来ません。

「——つて! そんなこんな言ってる間にもうタイムリミットが近いぞ!」

「読者の皆様、大した紹介も出来ずすまない」

「だ〜か〜ら〜東さんが司会進行するつて言ったのに〜!!」

「あ、復活した」

「というわけで、インフィニット・ストラトス〔ツツクモノ◆カワルコト〕Comi n g S o o n だ!」

「お楽しみに〜」

「え? もう終わり!? 東さんの出番がああああ!!」

はい。カットオ〜! ありがとうございますた〜

【山田翔】

今作の主人公で、年齢は千冬や東と同じ年になります。あと名字で気づいた方もいると思いますが、山田真耶の兄でもあります。やまやは妹☆

ある事件がキツカケでIS学園に入学する事になります……生徒として(笑)



能力としては本人曰く「束程では無いがそここの頭脳と技術、千冬程では無いがそこそこの戦闘力を持った普通の人だ」との事です。

「まだ人外枠になった覚えはない！」とも。

真耶同様に童顔で、実年齢より若く見られがち。正直 I S 学園の制服姿も……「アツ？」……いえ、なんでもありません。

あまり書くとネタバレになるので、この辺にしときます！あと数話で本編完結の前作終了後、こちらも投稿していきますのでよろしくお願いします。

## 第000話 作品紹介2

「結局のところまだ新作アツプされないわけ？」

「来年頭と言ってたが、どうやらだいぶ先になりそうだな」

色々あり結局どんどん後に後になっていく日々……

「けど前の二つはやつと完結したわけだし、そろそろ私としょーくんのラブストーリーが始まるんじゃないかと！」

「ダレとダレのだった？ アア？」

額に怒りマークを浮かべ睨む翔に対し、東は当たり前のように如く叫ぶ。

「どこの泥棒猫か知らないけど、私としょーくんの間に入る隙間なんて与えないんだからね!!」

東の背中から黒いオーラが立ち上がり始め……見かねた千冬が止めに入る。

「東……それくらいにしておけ」

「だって！ ちーちゃん!!」

「俺はヤンデレ、ストーリーカー女は嫌いだ」

「……………」

「おい、翔。そんなバツサリ言い切らなくても……」

さすがに言い過ぎだと思つた千冬が翔に言うが……

「千冬——良く考えてみる。ただでさえ、認識する身内をわざわざ衛星まで使つて、盗撮盗聴するこいつが自分にヤンデレストーカーになった姿を想像してみる」

「……すまん。本気で想像できてしまつて、私も凄い嫌悪感を覚えてしまつた……」  
「ちーちゃんまで!?!」

青ざめた顔になる千冬を見ながら、翔は言葉が続ける。

「内面はともあれ、束は外見は凄く綺麗で、可愛いし、スタイルも良くて、ほぼ100点に近いと言つてもいいんだから、ちよつと落ち着いて性格直せば、引く手数多だと思つたんだがな?」  
現にお前のファンだとか、紹介してくれつて話しは過去何度も合つたし………俺だつて……ゲフンゲフン」

「そんな有象無象じゃなくて、私はしょーくんが良いの!——つて、そんなべた褒めして私を口説いてる?」  
もう告白と取つても良いのかな、かな?」

「すまん。無理だ」

「………(束はある意味、自分で自分のチャンスを潰してしまつたのか……私はそうはならないぞ!)」

そんなこんなで生存確認ならぬ継続確認も含めた先行投稿でございます。

こんな感じで束が、チヨコチヨコちよつかいを掛けてくるかもしれないませんが、翔と〇がハッピーエンドを迎えられる作品になるはず！　なので、本編アツプまで暫くお待ち下さい（＼／＼）

「逆転エンドも有りだよね★」

「知らんわ！」

「……逆転エンド……そんなの許さない」——つて、〇！　いつの間に!!」

「遅いから私も覗きに来た」

「出たな！　泥棒猫!!」

「あなたは既に振られたんでしよう？　未練がましいのは良くないと思う」

バチバチと火花を散らせながら睨み合う二人。

「……………オイ、翔。開始前からヒロイン候補がバチバチだが良いのか？」

「……………あの間に俺に入つて逝けと？」

コクリと頭を下げる千冬……溜め息を吐きながら、二人の間に入つていく翔……………うん。これラブコメ小説の予定だよね？

そんな事を思いながら執筆活動に励む私でした。さよならさよならさよなら

「……—つて、ここで終わりかい!!!」

尚、この先行投稿は本編開始とともに消滅致します★